

# 6 沖縄の土壌 - マージ



沖縄を代表する土壌の赤土は、北部にも南部・離島にも広く分布しています。この赤土を方言で「マージ」といいます。ここでは、赤土の成因と性質、その利用について調べてみましょう。

1. 国頭マージと島尻マージは、どちらもある岩石が風化して出来ました。では、どのような岩石が風化したのか、下の（ ）に記入しましょう。

国頭マージ ( )

島尻マージ ( )

2. 国頭マージと島尻マージでは、性質が異なるため、生育する植物に大きな違いがあります。そこで、それぞれで生育する植物を調べましょう。

国頭マージ ( )

島尻マージ ( )

沖縄の赤土には大きく分けて2種類あります。北部地域に主に分布する「国頭マージ」と南部・離島地域に主に分布する「島尻マージ」です。同じ赤土に見えますがその性質は大きく異なります。国頭マージは酸性土壌で、島尻マージはアルカリ性土壌です。性質が異なるため、国頭マージと島尻マージでは、そこに育成する植物にも大きな違いがみられます。

国頭マージでは主にパイナップルが育てられています。また、島尻マージでは主にサトウキビが育てられています。両方とも沖縄県の県産品としてよく知られています。

沖縄島南部地域には、「クチャ」と呼ばれる灰色の泥岩層でいがんがあります。それが風化したものを「ジャーガル」といいます。島尻マージは、本来農業には向かない土壌でしたが、「ジャーガル」を混ぜることによって農業に適した土壌に改良することができました。先人の知恵には素晴らしいものがありますね。

